

原料用サツマイモ小苗栽培の栽培特性と施肥法

小苗栽培の適正施肥量は、慣行栽培の施肥基準と同じ窒素施用量8kg/10aで、上いも収量は慣行栽培とほぼ同等

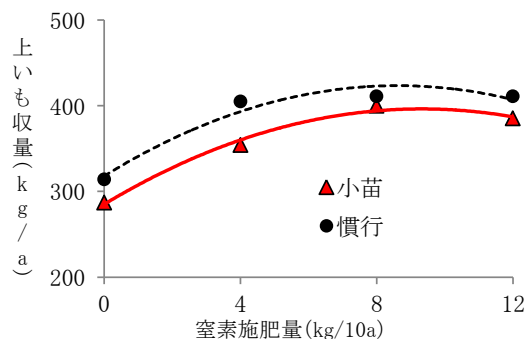
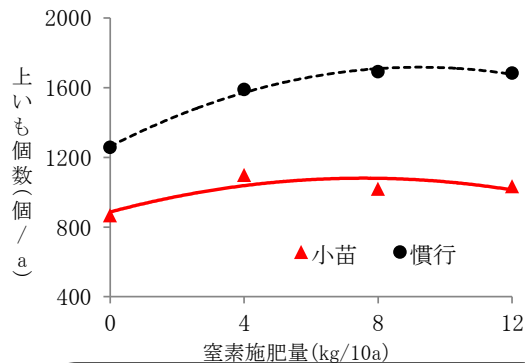
背景・目的

- ・原料用サツマイモは本県の基幹作物であるが育苗作業はほぼ人力で高齢化に伴い作業負担が増加 ⇒ 苗切子の減少
- ・労力軽減のため育苗から挿苗作業を一貫して体系化する小苗栽培技術が開発 ⇒ 省力化，規模拡大
- ・小苗栽培は苗が15cmで短く，節数も4～6節と少ないことから普通苗を使った慣行栽培に比べ個数が少なく減収する傾向
- ・慣行苗に比べ苗質が大きく異なるため初期生育や収量確保のための施肥法も慣行栽培と異なる恐れ

成果の内容



- ・小苗は茎長15cm ・節数4～6節
- ・慣行苗と比較してやや軟弱



小苗栽培(コガネセンガン)の特性

- ・上いも個数は大きく異なり，小苗栽培では**慣行栽培の60%程度**。施肥量を増しても小苗栽培では増加しない
- ・茎葉重と塊根重の比は施肥量にかかわらず**0.5～0.6程度**で小苗と慣行栽培とも「つるぼけ」はみられない
- ・しかも**収量は慣行栽培と同等**

導入メリット

小苗栽培を導入することで！

・暑い中の選択採苗から開放！



・挿苗作業から開放！



小苗栽培で育苗・採苗時間の大幅削減可能

労働時間は慣行16.5時間に対し，小苗8.9時間で**7.6時間短縮**

期待される効果

シロユタカの小苗栽培特性はコガネセンガンと同様で，収量性も慣行栽培と同等！

小苗栽培による一貫作業体系導入で原料用サツマイモ栽培省力・大規模営農が可能！

普及対象・範囲
原料用サツマイモ生産者，農業法人